



映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

2組 3番 名前 石塚 一平

【映画】

バレンタイン - 揆

【レビュー】

この映画の中で、NGOの1人が、「先進国は途上国の第一次産業によって成り立っているのに、そんな国を途上国呼ばわりするのは言葉の暴力だ」と言っていた。私はこの考えに心を打たれた。確かに今私たちが住んでいる日本は先進国である。食べ物に困らず、経済も発展していて、欲しいものは何でも手に入る。そんな私たちはアフリカにほとんど興味がないだろう。しかし、ガーナの 카카오 や南アフリカの マンガン などによって私たちの生活は成り立っているのだ。そのくせ、「途上国」と呼ぶ。この映画を観るまで私自身も心の中でアフリカを卑下してしまっていたかもしれない。現地の子供も訴えていた。「原料のために人が働いているのは僕たちなのに、なぜお金をたくさん得るのは大企業なんだ」と。日本という国の中で生活していたから分からなかつたこと、知らなかつたこと、そしてアフリカの労働の実態。それらを学んで、アフリカの教育を改善したいと感じた。「フェアトレード」や「南北問題」という言葉は用語として覚えてはいるが、実際それまでフェアトレード商品を買うことでアフリカの児童・生徒を守ることになる。みんなのそのおとした気遣いが、アフリカを救うことになるということをもっと多くの人に伝えたい。私自身も、この映画を観る前は外交官になりたいとだけぼんやりと感じていたが、バレンタイン-揆を通して、未だに貧困な地域に豊かな教育を届けたいという確信が持てた。是非たくさんの人々に一度この映画を観てほしい。



映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

組 3 番 名前 東 和佳奈

【映画】

# バレンタイン-揆

【レビュー】

## 客観を主観へ

～世界中の苦しんでいる人を助けるために～

### ★ あらすじ ★

日本人の女の子3人がアフリカの  
ガーナの村を訪れた。そこでたくさ  
んの子どもがカカオ農園で働か  
され、学校に行きたくても行け  
ない、「児童労働」の現実を  
知る。日本へ帰り、少しでもそ  
の問題を改善させようと、  
女の子たちは「バレンタイン-揆」  
というイベントを企画した。

### ★ 感想 ★

私はもともと「児童労働」の問題をき  
いたことがありました。しかし、あまり実感は  
なく、「外国ではそのような問題がある  
のだな」とどこか客観的に考えてしま  
っていました。

この映画を見て、この問題だけでなく  
世界中のあらゆる問題を主観的に促え  
ることが、問題解決への第一歩なの  
だと強く感じました。そのためには  
この映画の女の子3人のように、自身  
の目で直接問題をみるのが一番だと  
思いますが、全ての人々が体験できるわけ  
ではありません。だからこそ、このような映  
画などを通して、「世界中全ての人々が少し  
でも問題と向きあう機会をつくるべきだ  
」と思います。

そして、3人の女の子たちのように、今自  
分たちができること、入まかせではなく  
自ら行動することが問題解決への近道  
だと感じました。

※「バレンタイン-揆」…バレンタインデーに、フェアトレードで  
つくられたチョコレートを選んで  
もらうためのイベント

### ★ バレンタイン-揆 名言集 ★

『「先進国」と「途上国」の分断線、  
「途上国」の一次産業なしでは「先進国」  
は成り立たないのに、「途上国」よば  
わり、てすこい暴力だと思ふ』

『気づくことはキツイ  
けど、だから知らないままでもいい  
とはもう言えない』



映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

7組 32番 名前 藤井 凜

【映画】

「バレンタイン - 揆」

【レビュー】

裏側に目を向ける

「あなたのそのチョコレート、本当に愛は足りていますか？」

自分たちが何気なく買っている商品の見えない所には児童労働がある。

日本の女の子3人が「ガート」へ向かい、帰国後

「バレンタイン - 揆」を起す。

ゴッドフレッド、オテイくん (15)

働くのは当たり前、学校には行けない  
往復3回、1日働いて約140円



簡単そうに見えるけれど実際はとっても難しい

「なぜ毎日こんなことをしなきゃいけないの？」という、彼の詩の中の言葉が胸に刺さる。

原料を大変な思いで作っているのにチョコレートを見たことも食べたこともない「ガート」の人々働かざるを得ない毎日のようにチョコレートを食べている自分が恥づかしくなった。

文化は違うけれど友達と話していたりサッカーをして遊んだりしている子たちを見てみると日本と変わらないように思えて、「どうしてこういう子たちがこの国では働かなくてはならないのか」という気持ちがさらに強くなった。

教育の大切さを「ガート」の人に説明したりフェアトレードについて日本人に説明することの難しさ → 子どもの物売りがいなくならない、日本では認知度が高くない

身のまわりの商品の原料に関心を持つ

フェアトレードの商品を選ぶ など 自分にできることをやっていくことが大切

少しづつ世界を変えていかなければと考えさせられる作品だった。



映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

9 組 3 番 名前 池田悠助

【映画】

ハレニタイン - 揆

【レビュー】

上位レビュー、対象国：日本



いけいけゆうゆう ハズレ1000レビューアー

★★★★☆ 心に訴えかけてくる作品。

2021年1月7日に日本でレビュー済み

サイズ: 64分 cinemoで視聴

まず、映画は「女子高生たちのカーブ訪問」——(i)、「ハレニタイン - 揆」——(ii)の二部で構成されています。

(i) フォジビオに参加したJKたちのカーブのカカオ農場を訪ね、児童労働の現状を目の当たりにします。カーブでは1000人の子供がカカオ農園で働いているらしいです。ただ、児童労働がなくなると人手が足りなくなるのは目に見えている(発展途上国なので人口ピラミッドはピラミッド型、富士山型)ので、益に貧しくなってしまうことが危惧されます。これを回避するために、CRADAやACEに代表される支援組織が必要とされると思います。

あとは、カーブでもおは飲むらしいです笑

(ii) タイトルでもある「ハレニタイン - 揆」とは、ハレニタインのチョコは5アトレードのものを買ってもある、というJKたちの取り組みです。準備も本番もなかなか上手いかな。インパクトの徹底、またSDGsが世間になじんでいないことがうかがわれます(ハレニタイン - 揆はSDGsを基にした企画ではありおきませんか...)

総じて、児童労働について考えさせる作品でした。

6,174人のお客様がこの役に立ちました

役に立た

違反を報告